



# 我が社の現場紹介

わがしゃのげんばしょうかい

07国補日統第07-06-578-0-001号  
 06国補日統第06-06-578-0-003号  
 06県単日維第06-71-101-0-003号 合併

第1ふ頭D岸壁上部工打替工事

施工者：株木建設株式会社

## |||||||||||||||| 工事概要 |||

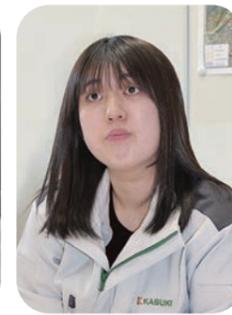
発注者 茨城県茨城港湾事務所  
 施工場所 茨城県日立市久慈町  
 工期 2025年7月9日～2026年2月27日



株木建設株式会社  
 第1ふ頭D岸壁上部工打替工事  
 所長 色川 昌利さん  
 いろかわ まさとし



株木建設株式会社  
 茨城本店管理部  
 赤津 舞さん  
 あかつ まい



株木建設株式会社  
 東京本店管理部  
 大出 菜々美さん  
 おおで ななみ

## 老朽化した岸壁のコンクリート打ち替え

茨城港日立港区は、北関東の海の玄関口として五つのふ頭に14の公共岸壁を有している。このうち第1ふ頭D岸壁は、主に海上輸送されるセメント材料を受け入れる役割を担う。現在、D岸壁の老朽化対策工事が進行中で、茨城県茨城港湾事務所が発注した「第1ふ頭D岸壁上部工打替工事」を株木建設が施工している。定期的に接岸するセメント運搬船の運航に支障の無いよう注意しながら、既設上部工の撤去と打ち替えが行われている現場を今回、同社茨城本店管理部の赤津舞さんと東京本店管理部の大出菜々美さんが訪問。一人で現場を切り盛りする現場代理人・監理技術者の色川昌利所長取材し、工事の内容や特色、港湾工事のやりがいなどについて話を聞いた。

**赤津** 工事の内容を教えてください。  
**色川** 古くなった岸壁を取り壊し、新しい岸壁に造り替える工事です。工種としては、上部工打替工、舗装版取壊し工に加え、船をロープでつなぎ止める係船柱の設置や、船体と構造物との直接的な衝突を防ぐ防舷材の設置があります。既設の係船柱をすべて撤去してしまうと、セメント船が停泊できなくなるので、まずは新しい係船柱を設置した後、既設を撤去するようにしています。

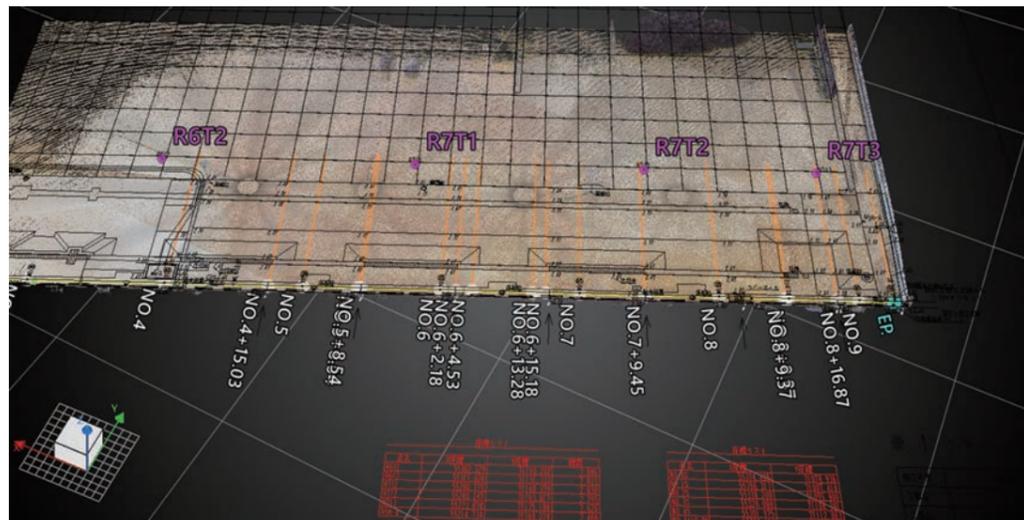


現場事務所で色川所長の話を聞いた

## セメント船運航に支障ないよう日々調整

**大出** 現場の職員体制はどうなっていますか。  
**色川** 現場代理人と監理技術者を私が兼務しています。一人で施工を担当していますが、前回工事の担当者に状況を聞くなど、社内的な協力を得ながら工事を進めていくようにしています。  
**赤津** 工事を進める上で特に注意をしていることは。  
**色川** 週1回ペースでセメント船を受け入れながら施工するのがこの工事の特色でもあります。構造物に船舶が接触して事故を起こすような事態は避けなければなりません。船舶の管理者と連絡を密に取るなど入船情報を確認しています。型枠や足場など仮設構造物が入船の支障とならないようにするなどにも注意して工事を行っています。  
**大出** 海の状況が施工に影響を及ぼすこともあると思いますが。  
**色川** 常に気象・海象状況を確認しながら行っています。一定基準以上の風が吹けば作業は中止になりますし、波が高い時も作業が中断となります。潮汐表などを確認しながら作業予定を

立てています。  
**赤津** ICTやDXの活用状況を教えてください。  
**色川** 海側から現場の状況を把握する目的でドローン撮影を定期的に行っています。また、既設構造物の現状把握では、工事着手前の状況を3Dスキャナーで点群データを取得し、取壊し前の状況確認に役立っています。ペーパーレス化し画像データを活用することで現場に行かずともパソコン上で現状を確認できるので業務の効率化につながっています。  
**大出** 働き方改革には、どう対応していますか。  
**色川** 県の週休2日促進工事でもあり、基本的に土日は休工となります。潮位によって作業時間が前後することもあり、その分の拘束時間が長くなることはあります。  
**赤津** 協力会社の皆さんとのやり取りで心掛けていることはありますか。  
**色川** 現場に出たときには作業員の皆さんに声かけを行うなど、コミュニケーションを心掛けています。前回工事でも担当してくれているので、現場の状況をよく分かっている点は助かっています。



点群データから確認した現況図

**大出** 発注者との日々のやり取りは。  
**色川** 現場事務所は、発注者の監督員がいる日立港区事業所の敷地内にあり、茨城港湾事務所もすぐ近くです。工事の状況を逐次報告できますし、相談事にも乗ってもらっています。  
**赤津** 色川所長は陸上工事も担当されていますが、港湾工事ならではのやりがいなどありましたらお聞かせ下さい。  
**色川** 港湾工事は予測不能な海を相手にしています。天気の急変、低気圧による高波などが施工に影響を及ぼすので、思った通りにスケジュールが組めない面もあります。困難な状況も乗り越えて完成した時には達成感を得ることができます。  
**赤津** 最後に工事完了に向けた意気込みを。  
**色川** 工事完了まで気を抜かずは無事故無災害で、品質の良い構造物を造ることができるよう頑張っていきます。  
**赤津、大出** 本日はありがとうございました。



色川所長の案内で現場を見学

**取材を終えて**  
 職員1名体制でありながら協力会社の作業員の方々と積極的に声を交わし、コミュニケーションを図ることで、作業を安全に進めている点が印象的でした。定期的に入港するセメント船との接触を避けるため入港状況をこまめに把握し、必要に応じて作業内容を調整することで第三者災害の防止に努めていることも分かりました。天候によって作業が大きく左右されるため毎日欠かさず天気予報を確認するなど、海での工事ならではの緊張感を感じました。資材が海に落下しないよう細心の注意を払うなど、工事に対する安全意識の高さを学ぶ大変貴重な機会となりました。  
 (赤津舞)

取材の中で、セメント船を受け入れながら施工を進めているというお話が印象的でした。気象や海象にも気を使いながら、セメント船との接触事故などが起こらないように発注者や協力会社とコミュニケーションを取り、工事を進めているとのことで、気を配らなければいけない点が多いと感じ、尊敬の念を抱くばかりです。また、海側からの現場の状況や既設構造物の把握などでのICT・DXの導入が業務の効率化につながっていることを実感しました。竣工に向けて、海象・気象の影響を大きく受けずに、無事故・無災害で工事を終わらせることを願っています。  
 (大出菜々美)

ご協力いただきました現場の皆様、この度はお忙しいなか誠にありがとうございました。(赤津・大出)



現場をバックに